



2020年3月期 第1四半期 決算短信補足資料

2019年8月5日
日本水産株式会社

◆原材料コストの上昇や天候不順の影響がある中、第1四半期は売上高・利益とも計画に対し想定内の進捗で通期計画に変更はない。前年同期比では減収減益。

(単位：億円)	2020年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	対前年同期比		2020年3月期 年間計画	進捗率
			増減	(%)		(%)
売上高	1,741 億円	1,747 億円	▲5 億円	99.7	7,100 億円	24.5
営業利益	57 億円	74 億円	▲17 億円	76.3	240 億円	23.8
経常利益	60 億円	82 億円	▲21 億円	73.8	265 億円	22.9
四半期 純利益	36 億円	52 億円	▲16 億円	69.1	175 億円	20.7

※チルド(食品)事業の取引形態の変更：2019年2月よりセンターフィー（販売費）と売上高を相殺する価格決定方式に変更となり、売上高は約24億円減少している。

今後のポイント

- ・第2四半期は南米養殖事業が回復(前年は稚魚斃死の影響大)
- ・国内外の食品事業において価格改定の実施と浸透
- ・最需要期となる第3四半期に向けた準備

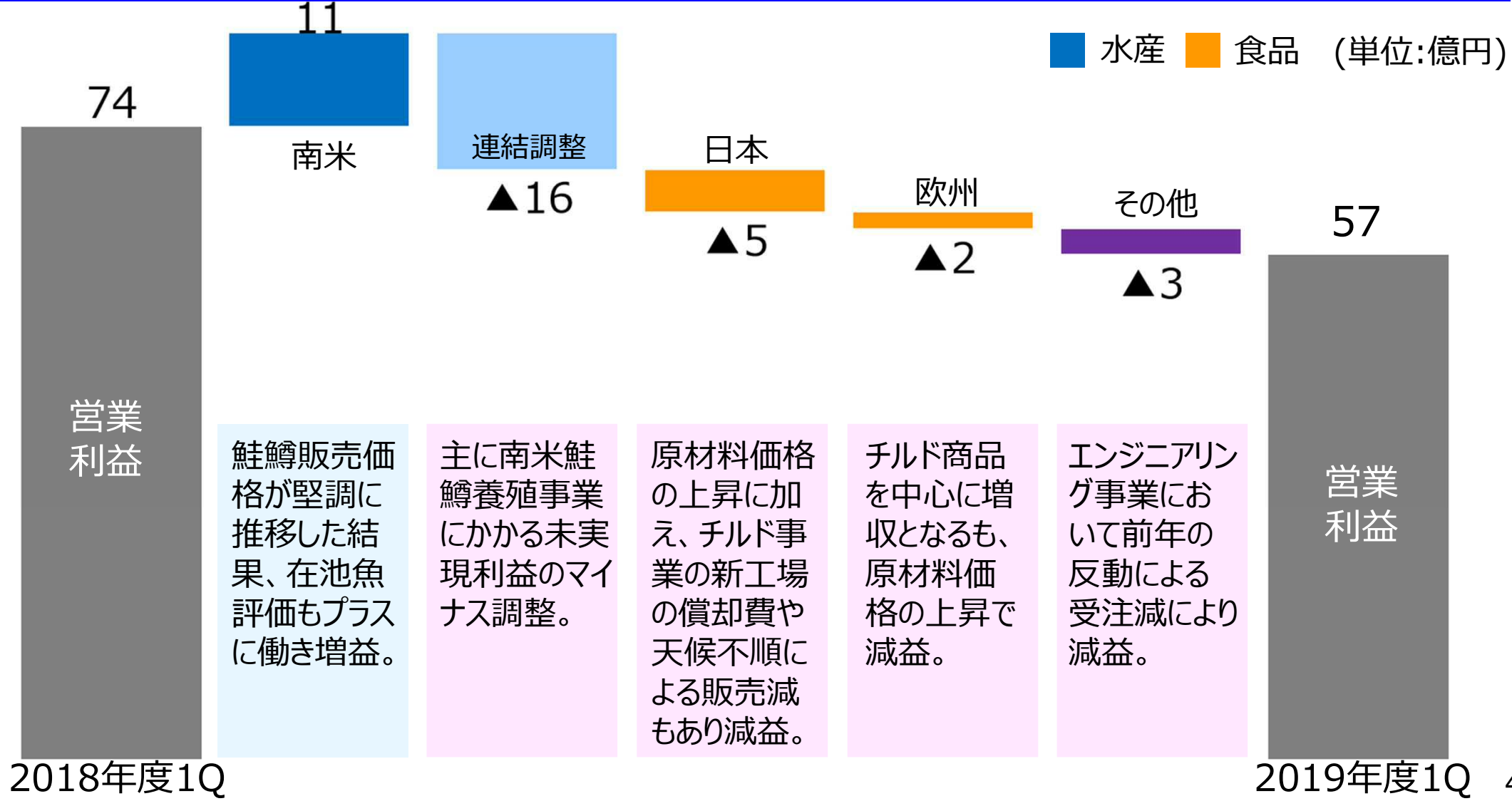
◆前年同期比では水産・食品事業に加え、その他事業が苦戦。

(単位：億円)	2020年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	対前年同期比増減		2020年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	1,741	1,747	▲5	99.7	7,100	24.5
水産事業	701	711	▲9	98.7	2,987	23.5
食品事業	880	855	24	102.8	3,449	25.5
ファインケミカル事業	66	61	4	107.2	281	23.5
物流事業	41	41	0	101.1	173	24.0
その他	51	77	▲25	66.8	210	24.6
営業利益	57	74	▲17	76.3	240	23.8
水産事業	30	34	▲4	87.1	134	22.7
食品事業	33	40	▲7	81.9	129	25.8
ファインケミカル事業	5	6	▲0	88.4	27	20.1
物流事業	2	4	▲1	58.6	20	12.3
その他	1	3	▲2	29.8	5	20.7
全社経費	▲15	▲14	▲1	107.1	▲75	20.8
経常利益	60	82	▲21	73.8	265	22.9
親会社株主に帰属する四半期純利益	36	52	▲16	69.1	175	20.7

主な営業利益増減要因



◆南米養殖事業は販売価格が堅調に推移しプラスとなったが、当四半期末では同社品がグループ内に在庫となったため、未実現利益のマイナス調整となり、実質減益。日本・欧州の食品事業も原材料高等コスト増で苦戦。



営業利益

鮭鱒販売価格が堅調に推移した結果、在池魚評価もプラスに働き増益。

主に南米鮭鱒養殖事業にかかる未実現利益のマイナス調整。

原材料価格の上昇に加え、チルド事業の新工場の償却費や天候不順による販売減もあり減益。

チルド商品を中心に増収となるも、原材料価格の上昇で減益。

エンジニアリング事業において前年の反動による受注減により減益。

営業利益

◆売掛債権・在庫が増え短期借入金が増加。

() 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

流動資産 2,544 (+68)

現金及び預金	80 (▲8)
受取手形及び売掛金	946 (+58)
棚卸資産	1,334 (+47)

固定資産 2,365 (+62)

有形固定資産	1,400 (+25)
無形固定資産	111 (+4)
投資その他の資産	853 (+32)

総資産 4,909 (+130)

流動負債 2,139 (+112)

支払手形及び買掛金	480 (▲13)
短期借入金	1,187 (+147)
その他	141 (+1)

固定負債 1,087 (▲2)

長期借入金	851 (▲18)
-------	-----------

純資産 1,682 (+21)

自己資本	1,487 (+24)
------	-------------

自己資本比率

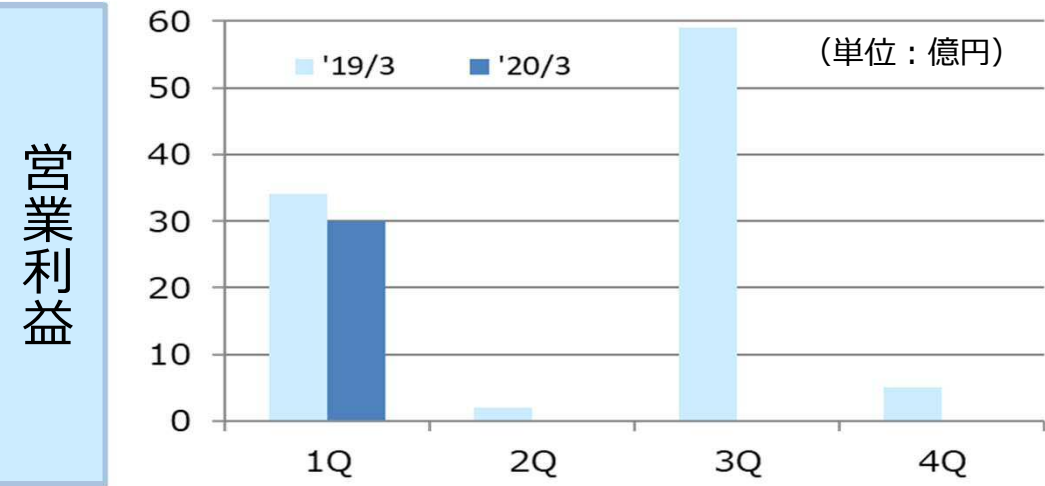
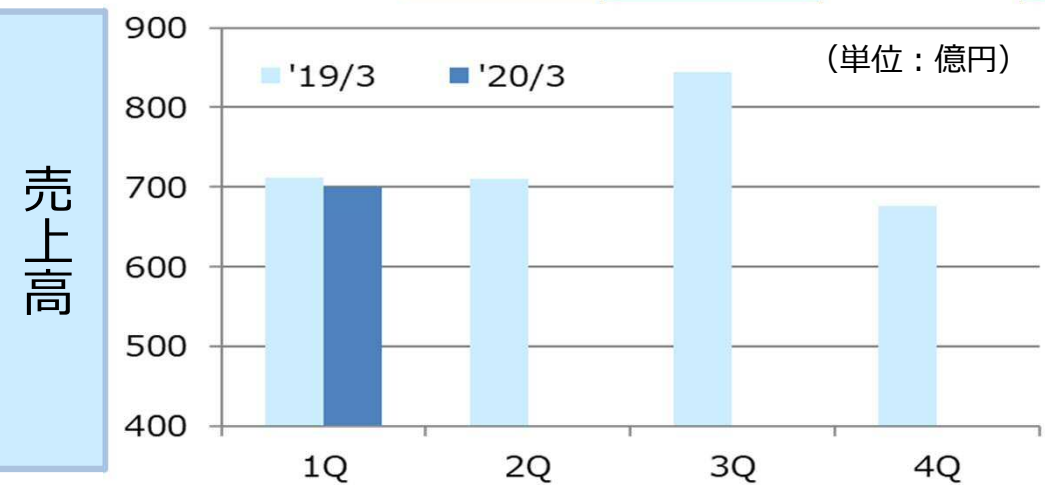
'19/3 30.6% ⇒ '19/6 **30.3%**

◆ 運転資本の増加もあり営業CFがマイナスとなる中、国内の養殖事業を中心に約60億円の投資を実施。

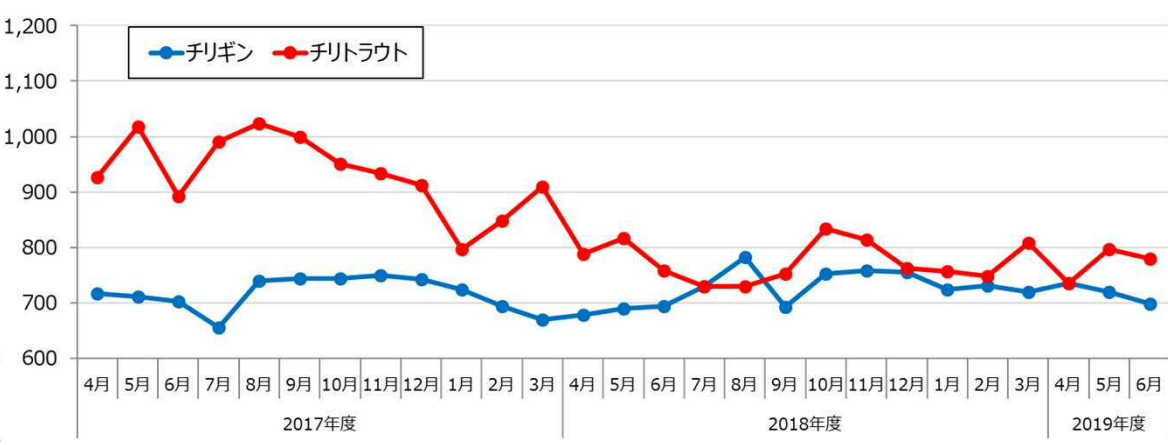
(単位：億円)	2020年3月期 第1四半期実績	2019年3月期 第1四半期実績	増減
・税金等調整前四半期純利益	59	84	▲ 24
・減価償却費 (のれん償却含む)	44	43	0
・運転資本	▲ 112	▲ 48	▲ 63
・法人税等の支払額	▲ 26	▲ 28	2
・その他	▲ 30	▲ 28	▲ 2
営業活動によるCF	▲ 65	22	▲ 88
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 60	▲ 36	▲ 23
・その他	▲ 4	52	▲ 56
投資活動によるCF	▲ 64	15	▲ 80
・短期借入金の増減額	188	41	146
・長期借入金の増減額	▲ 60	▲ 43	▲ 16
・その他	▲ 16	▲ 15	▲ 0
財務活動によるCF	111	▲ 17	129
現金及び現金同等物の期末残高	142	259	

◆南米養殖は好転するも、連結調整の影響により減益。国内養殖は概ね順調も鮭鱒は苦戦。

(単位：億円)	2020年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	対前年同期比増減		2020年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	701	711	▲9	98.7	2,987	23.5
営業利益	30	34	▲4	87.1	134	22.7



＜国内水産物市況 鮭鱒 (財務省貿易統計より算出)＞ (単位：円/kg)



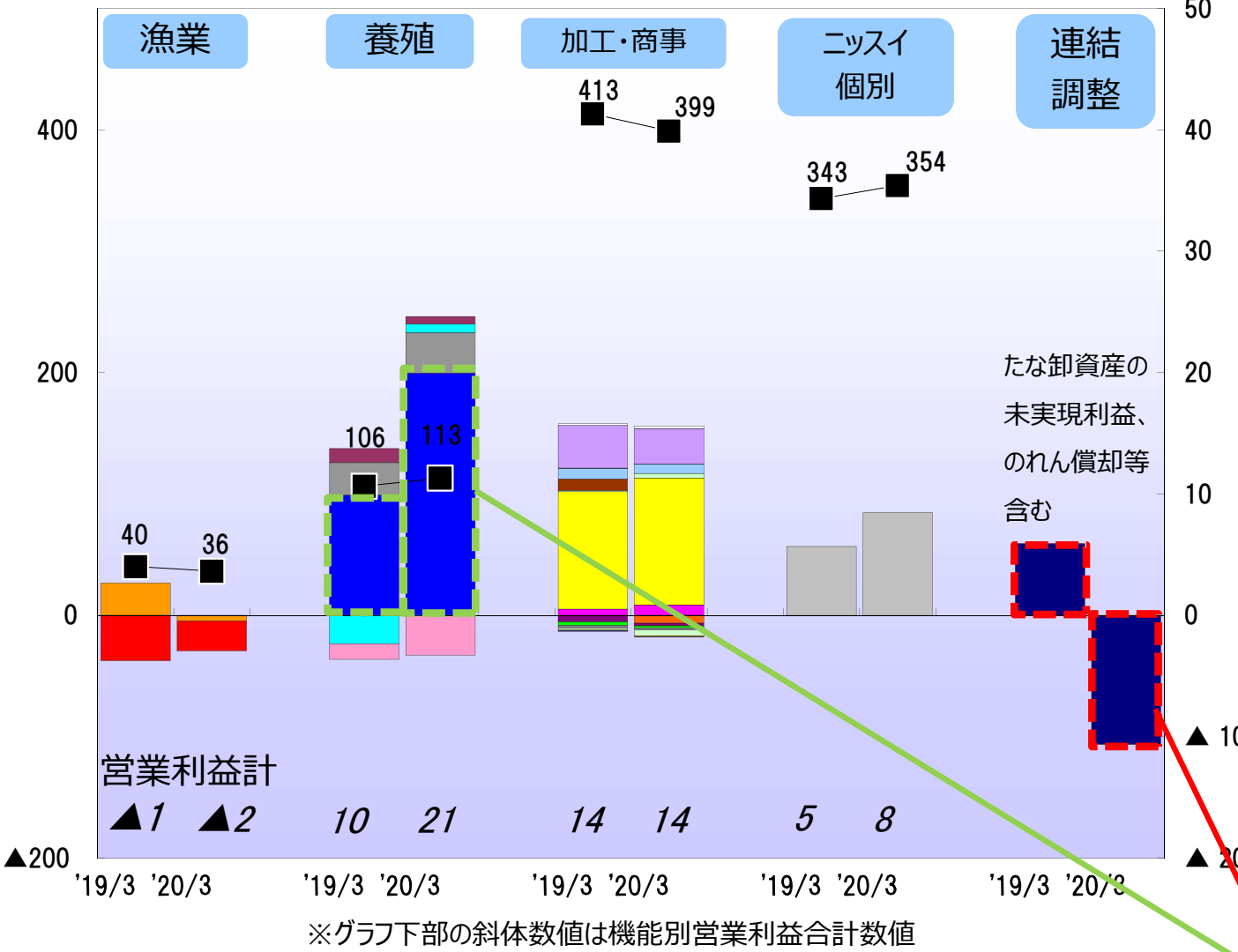
水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



売上高 (折れ線グラフ)

(単位:億円)

営業利益 (棒グラフ)



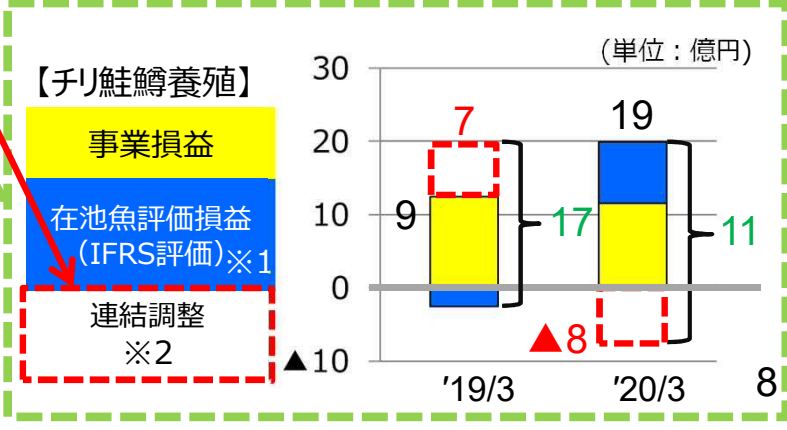
主な増減要因

【漁業】(減収減益)
 ・日本：さばなどの漁獲低調

【養殖】(増収増益)
 ・国内養殖事業
 ぶり：販売尾数増、販売価格上昇
 まぐろ：在池尾数差異、評価減減少
 鮭鱒(銀鮭)：稚魚成育不漁
 ・南米鮭鱒(トラウト) 養殖事業
 販売価格堅調、在池魚評価プラス

【加工・商事】(減収増益)
 ・米国加工事業
 販売価格上昇などにより増益
 ・欧州商事事業
 販売好調も、為替の影響で減収

・ニッスイ個別
 鮭鱒やぶり等で販売順調



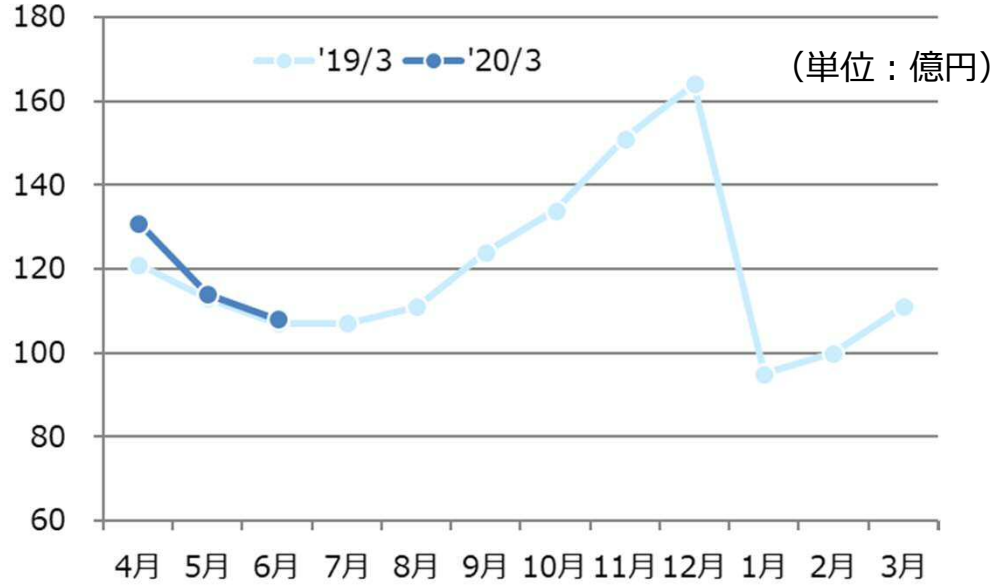
※1 国際財務報告基準(IFRS)に基づき四半期決算毎に出荷・販売前の養殖魚(在池魚)の時価評価を行い、営業損益に計上しております。

※2 南米鮭鱒養殖事業の在庫に含まれる未実現利益の調整。

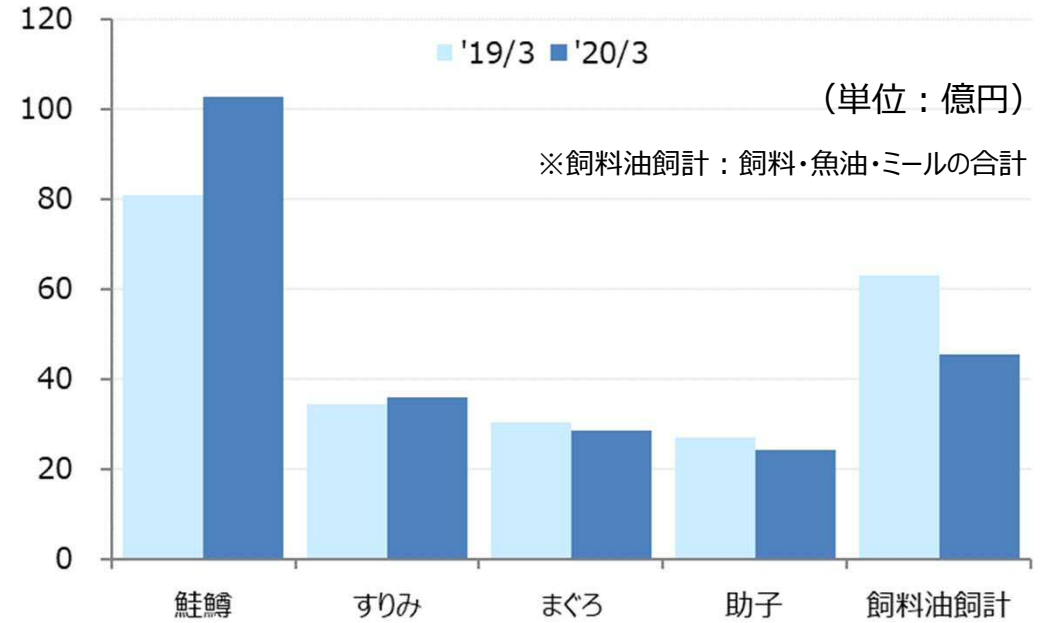
水産事業 ニッセイ個別(前年同期比)



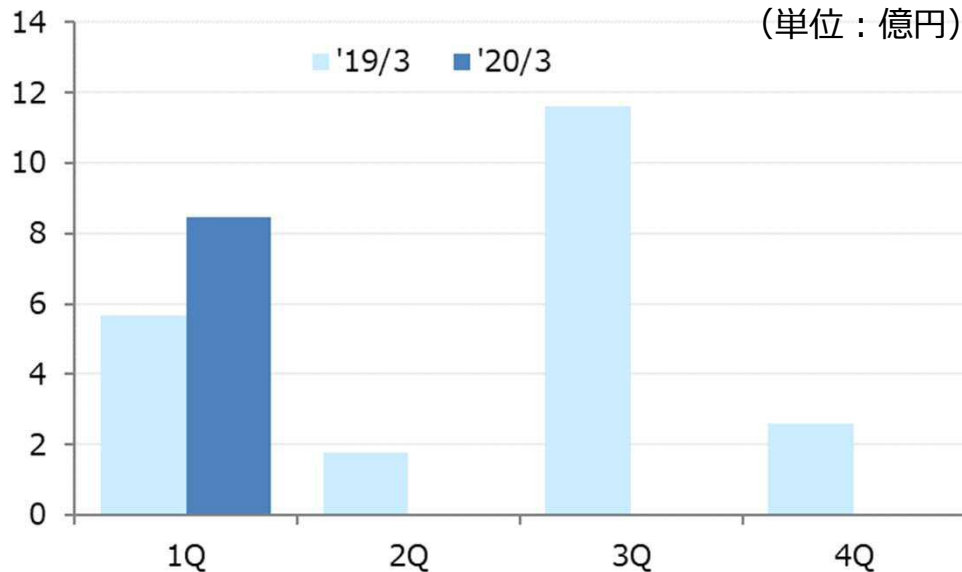
<売上高 (月別) >



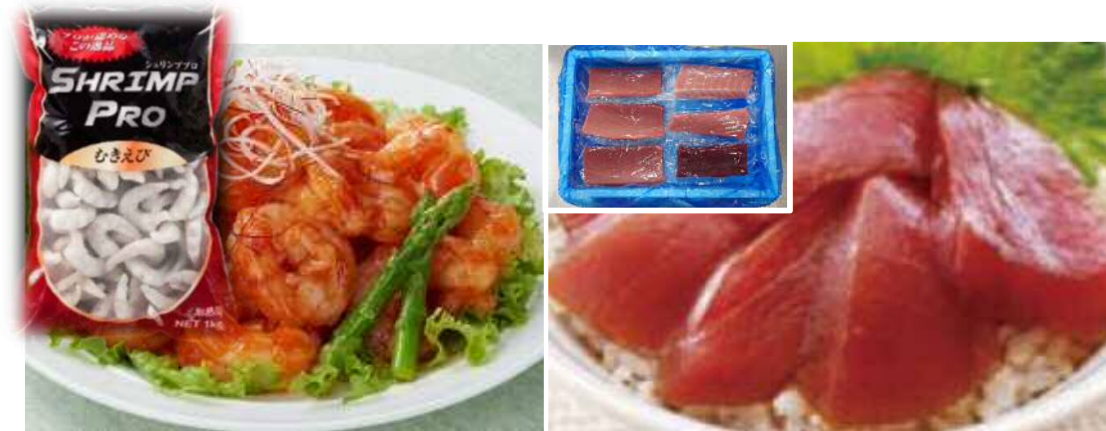
<主要魚種別 売上高 (前年同期比) >



<営業利益 (四半期別) >



<加工度を高めた水産商品群>



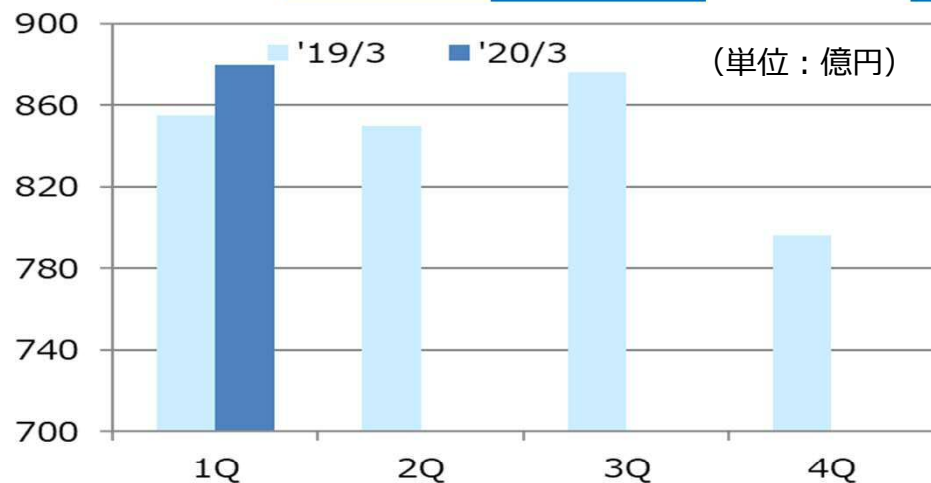
浸漬技術で美味しさを
キープしたえび商材

まぐろの加工度を高め、
利便性と美味しさをアップ

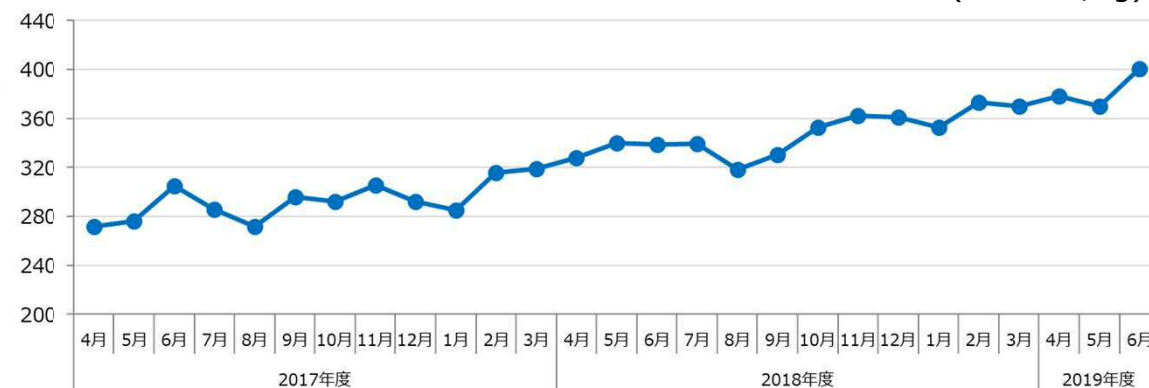
◆原料価格上昇などコスト増に加え、チルド事業の償却費負担や天候不順の影響もあり減益。

(単位：億円)	2020年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	対前年同期比増減		2020年3月期 年間計画	進捗率
			(億円)	(%)		(%)
売上高	880	855	24	102.8	3,449	25.5
営業利益	33	40	▲7	81.9	129	25.8

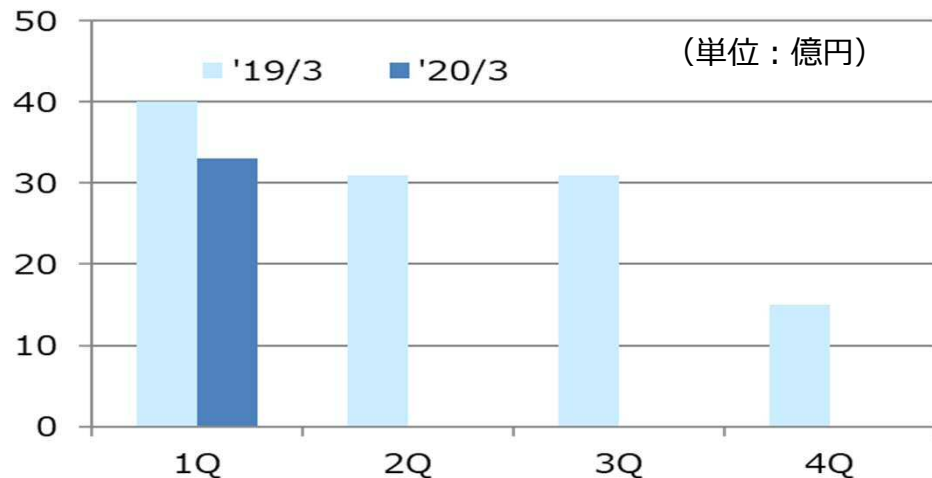
売上高



＜冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)＞ (単位：円/kg)



営業利益



北米の業務用
冷凍食品会社
はえび商品を
中心に好転



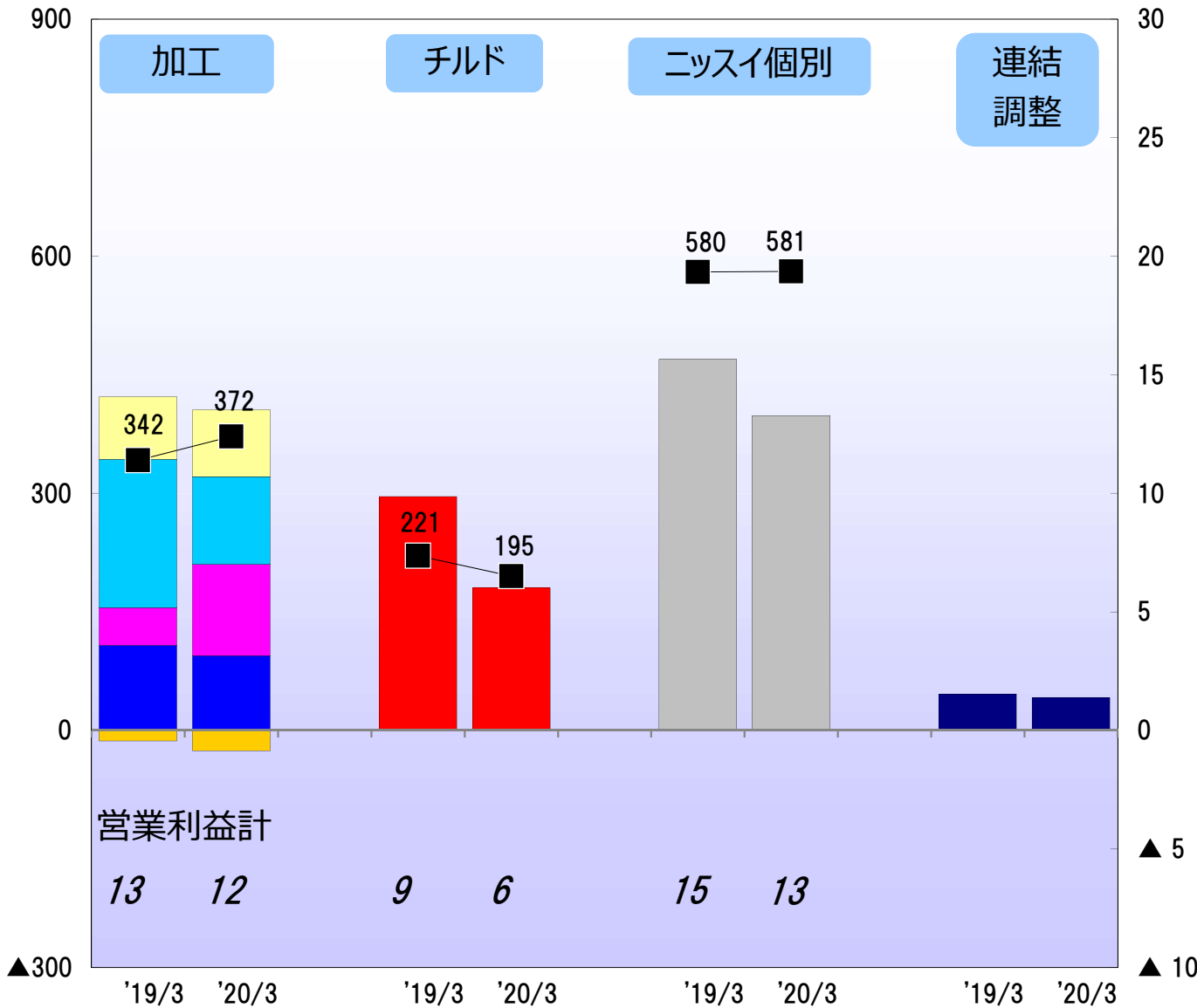
食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



売上高 (折れ線グラフ)

(単位:億円)

営業利益 (棒グラフ)



主な増減要因

【加工】(増収減益)

- ・北米 (冷凍食品)
販売好調に加え、業務用は生産性改善

・ヨーロッパ

チルド商品を中心に増収となるも、白身魚などの原料価格が上昇し減益

・日本

冷凍食品を中心に販売が伸長したが、すりみの原料価格や物流費の上昇などにより減益

【チルド】(減収減益)

- ・取引形態の変更に加え天候不順による販売数量減少などで減収。新工場の減価償却費などの関連するコスト増があり減益

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

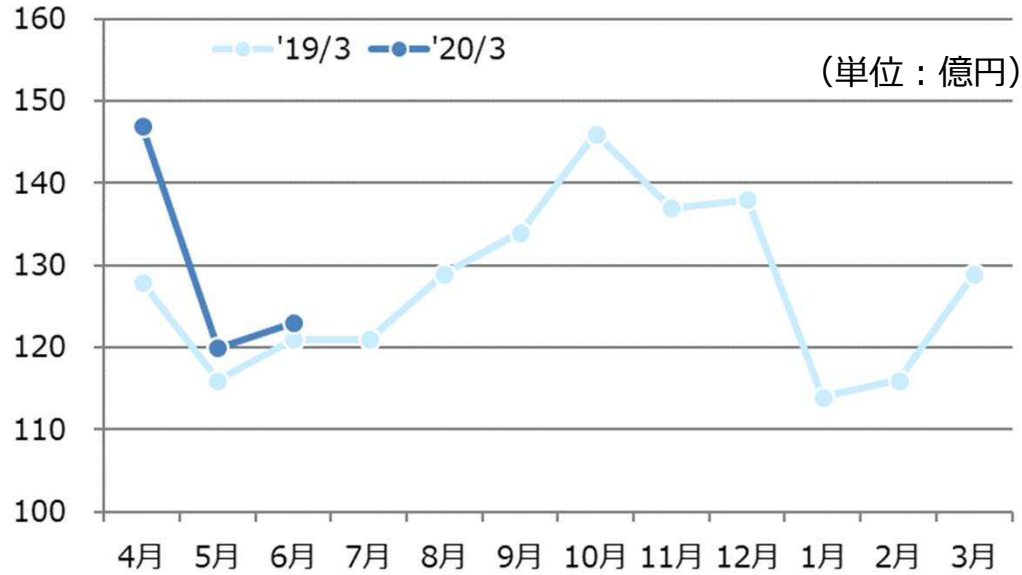
※チルド事業の取引形態の変更

2019年2月よりセンターフィー (販売費) と売上高を相殺する価格決定方式に変更となり、売上高は約24億円減少している。

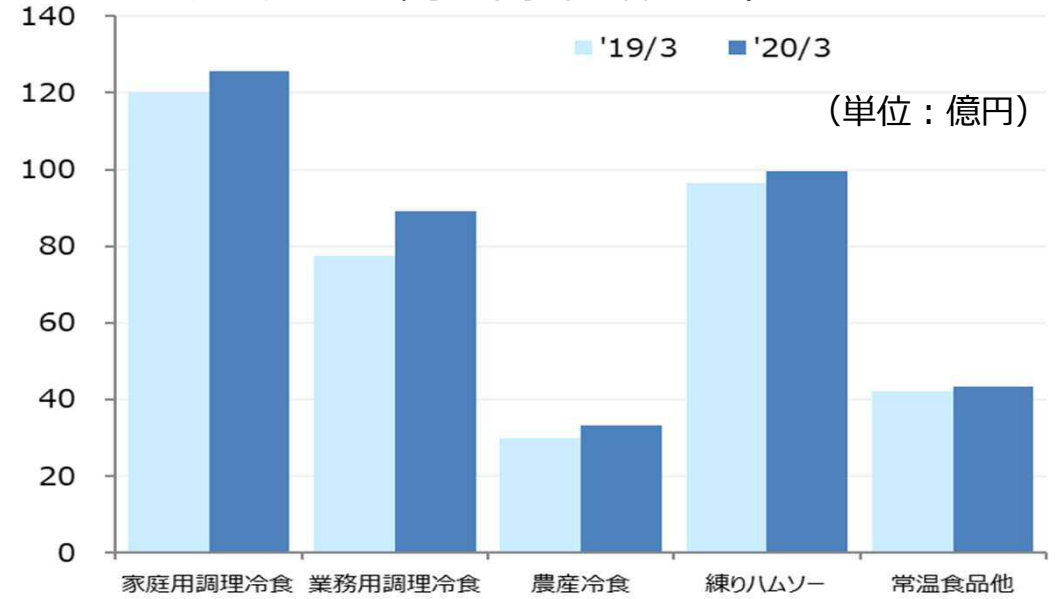
食品事業 ニッスイ個別(前年同期比)



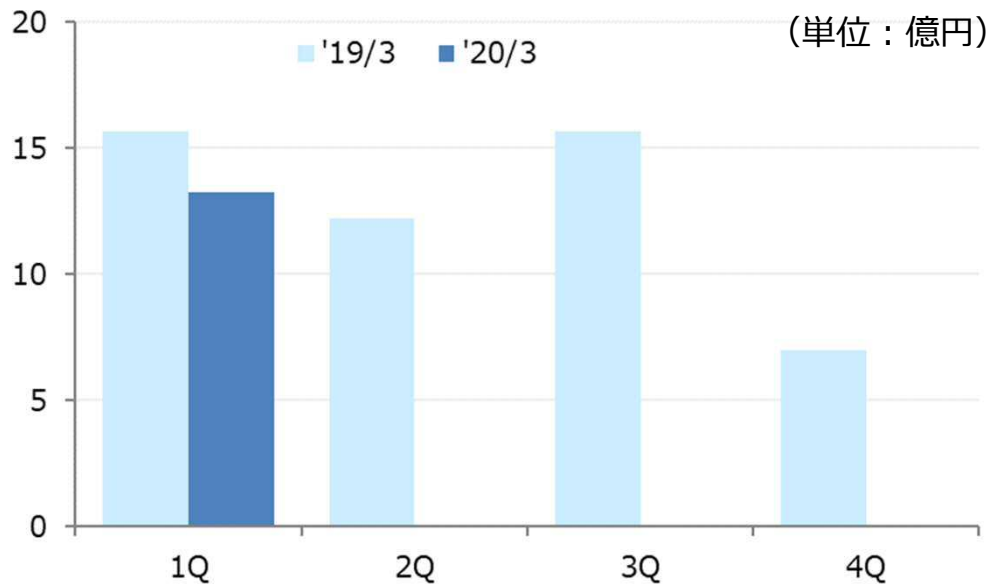
<売上高 (月別) >



<カテゴリー別 売上高 (前年同期比) >



<営業利益 (四半期別) >



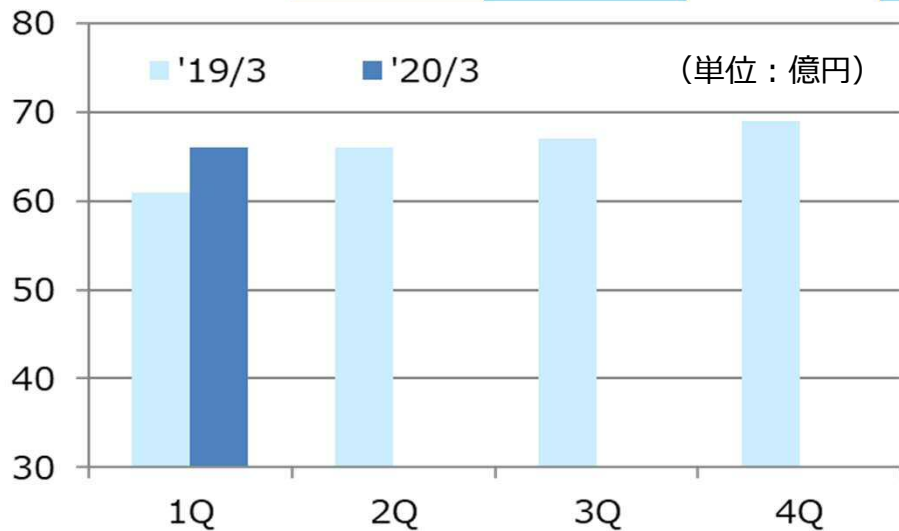
<販売好調な商品群>



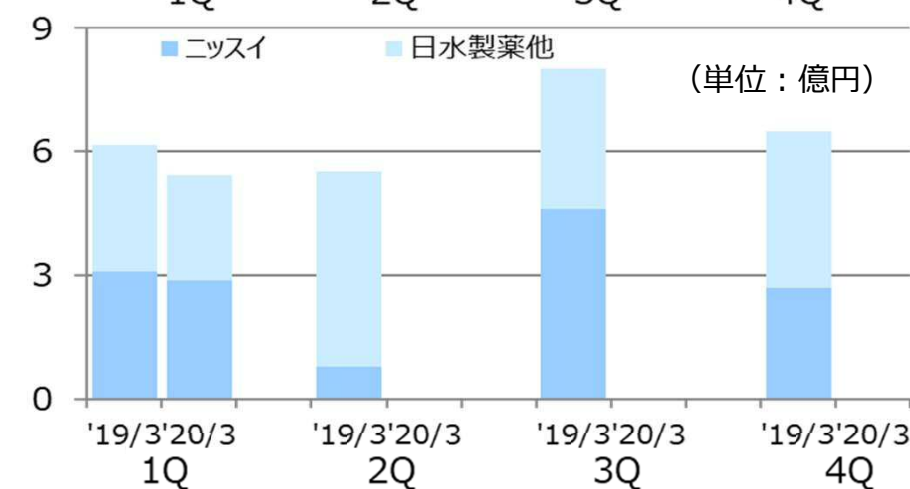
◆機能性原料は伸長するも、グループ他が苦戦。

(単位：億円)	2020年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	対前年同期比増減		2020年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	66	61	4	107.2	281	23.5
営業利益	5	6	▲0	88.4	27	20.1

売上高



営業利益



主な増減要因

【ニッスイ個別】

- ・機能性原料：国内外で販売堅調
- ・機能性食品：通販事業の広告宣伝費の削減で収益性向上

【グループ】

- ・販売の期ズレの影響に加え、原価コストが上昇したこともあり減益



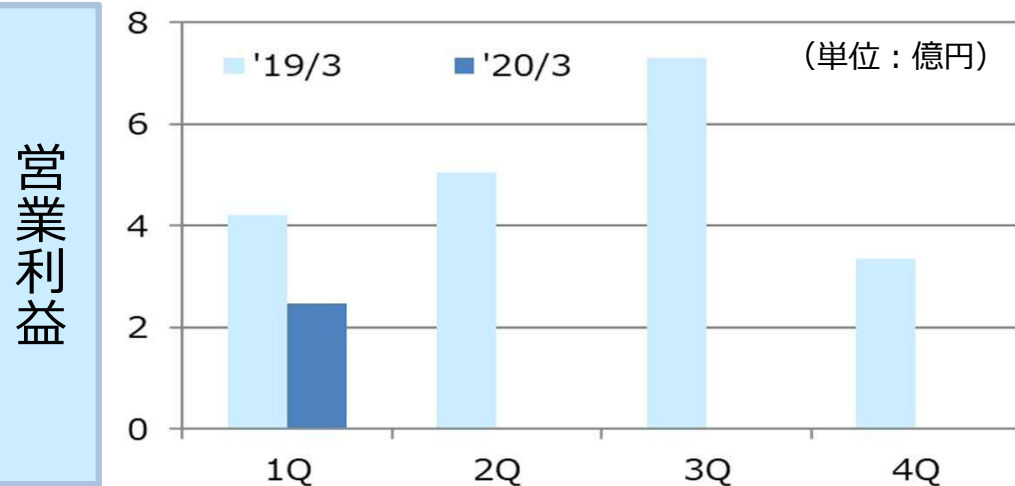
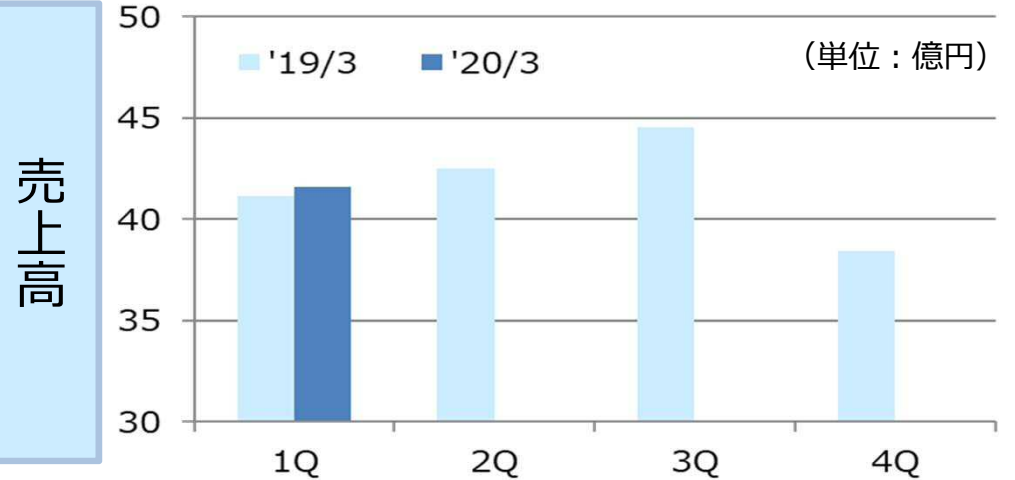
販売好調な記憶力の維持をサポートするDHA飲料



今年で発売15周年!!

◆退職給付債務の算定方法変更の影響があり減益。

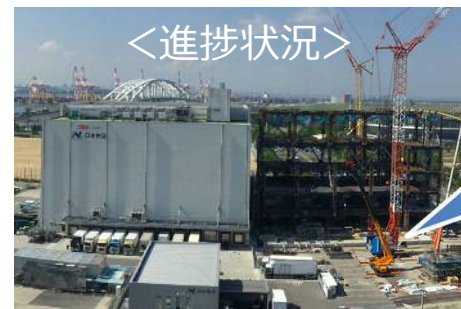
(単位：億円)	2020年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	対前年同期比増減		2020年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	41	41	0	101.1	173	24.0
営業利益	2	4	▲1	58.6	20	12.3



主な増減要因

- ・倉庫料金値上げや運送収入増で売上堅調も、退職給付債務の算定方法を簡便法から原則法に変更したことにより減益。

<日水物流(株)・大阪舞洲物流センター2期工事>



完成予想図

水産

- 養殖の高度化や加工拠点の拡大などの生産・調達の安定
- 北米や欧州など、海外を中心とした販売エリアの拡大

食品

- 国内外で生産拠点の整備や再構築により生産効率化を目指す
- 原材料等コスト増への対応として価格改定の実施と浸透

ファインケミカル

- 高純度EPAの海外展開に向けた許可取得等準備を急ぐ
- 欧州で高まるDHAの需要増に対応する

CSR



フードロス削減



海洋プラスチックについての検討開始

水産

食品

ファインケミカル

認証品の販売拡大

3月に「ASC」、4月に「BAP」認証を取得。今後養殖魚の更なる拡販を目指す。



南米鮭鱒養殖事業

ASC認証 養殖方法や自然環境などに配慮した「責任ある養殖水産物」であることを証明。

BAP認証 養殖における環境への配慮や食品安全性が確保されていることを認証する第三者認証プログラム。

飼育の安定化

採卵の多回数化に加え、今後の規模拡大に備えた種苗センターの設備増強を計画。



ぶり養殖事業



黒瀬水産(株)類娃種苗センター

欧州エリアの強化

英国の水産会社の経営に参画。既存の欧州水産・食品会社の調達・加工機能との相乗効果を狙う。



欧州加工事業



FlatFish社の工場と商品例

水産

食品

ファインケミカル

海外事業



欧州: 生産拠点の拡大と効率的な生産体制の構築



北米業務用: えび原料以外の商品拡充(例: CVS向けフィッシュバーガー)

チルド事業

新工場の稼働の安定化、生産体制の見直し・最適化を進める



2019年1月から稼働した日本クッカー(株)伊勢崎工場

価格改定

- ・冷凍食品の一部の米飯・麺アイテムの価格改定
- ・春にスタートした値上げの浸透



水産

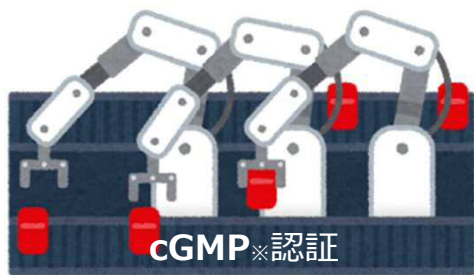
食品

ファインケミカル

高純度EPAの海外展開の準備



生産体制 (cGMP^(※1)の認定取得など) や**品質保証** (DMF^(※2)への登録など) の両面を中心に、海外に展開するための様々な準備を進めていく



※ cGMP...米国で適用される医薬品適正製造基準



※ DMF...米国FDA(食品医薬品局)による医薬品等登録原簿

欧州でのDHAの需要増に供給体制強化で対応



調理に人手を要しない
需要の高まり

凍ったまま
盛りつけ上手



自然解凍で盛り付け可能な
骨とり鯖塩焼き

様々な料理に使える魚の
栄養を摂取できる素材



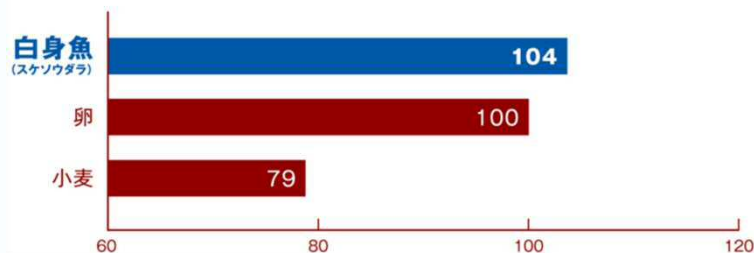
白身魚をミンチ状にし、肉のよ
うに扱える

＜白身魚の新たな効能＞

すけそうだらには、卵と同等以上の良
質なたんぱく質が含まれています!!

たんぱく質の質評価

(体内利用率) IAAO法スコア® (卵を100としたときの質評価)
※標準アミノ酸化法によるたんぱく質の質評価



※「当社共同研究データ(2017)」より

洋風の味付けで
より気軽に魚を食卓へ



フライパン調理で野菜も摂れる
白身魚商材

調理の手間を省いた
「時短」商品



レンジ加熱で本格中華が味わえるキット



水なしで調理可能な低カロリーのスープ

独自技術で
幅広い料理に



シーグレイスほたて風味の調理例



すりみを高温高压処理することで、本物に近い繊維感を創出



かに風味フレークの調理例

魚の美味しさや
栄養を手軽に



1本で、真いわし1匹分の栄養素(魚肉たんぱく質、カルシウム、EPA+DHA)が摂取できるフィッシュソーセージ

最強の食卓 キャンペーン

合計
850名様に
当たる!



ニッスイの商品を対象に、合計850名様にALL BLACKSオリジナルグッズなどを抽選でプレゼントするキャンペーンを実施。

実施期間

2019年9月1日(日)～11月2日(土)

ニッスイはニュージーランド代表ラグビーチーム「ALL BLACKS」のスポンサーを1988年より30年以上にわたって務めています。

対象商品 (一例)



サプライチェーン全体を通じたフードロスの取組み

廃棄削減

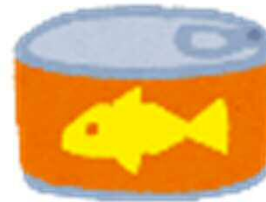
生産
輸入



各事業生産や仕入れ
の段階での廃棄削減

賞味期限延長

流通



食品の賞味期限延長
保存試験継続

啓蒙活動

消費者
従業員



消費者や従業員向けの
様々な啓蒙活動を実施

缶詰の賞味期限を 7月より年月表示に変更

「フードロス」対策のひとつとして、賞味期限表示を年月表示に変更することで、流通・販売の各段階における製品ロスの削減が可能に



活動を支援

87.34%出資



日本海洋事業(株)

JAMSTEC（国立研究開発法人海洋研究開発機構）が所有する研究船の運航や「しんかい6500」などの深海調査システムの運用を受託しています。

活動機関の1つとして参加



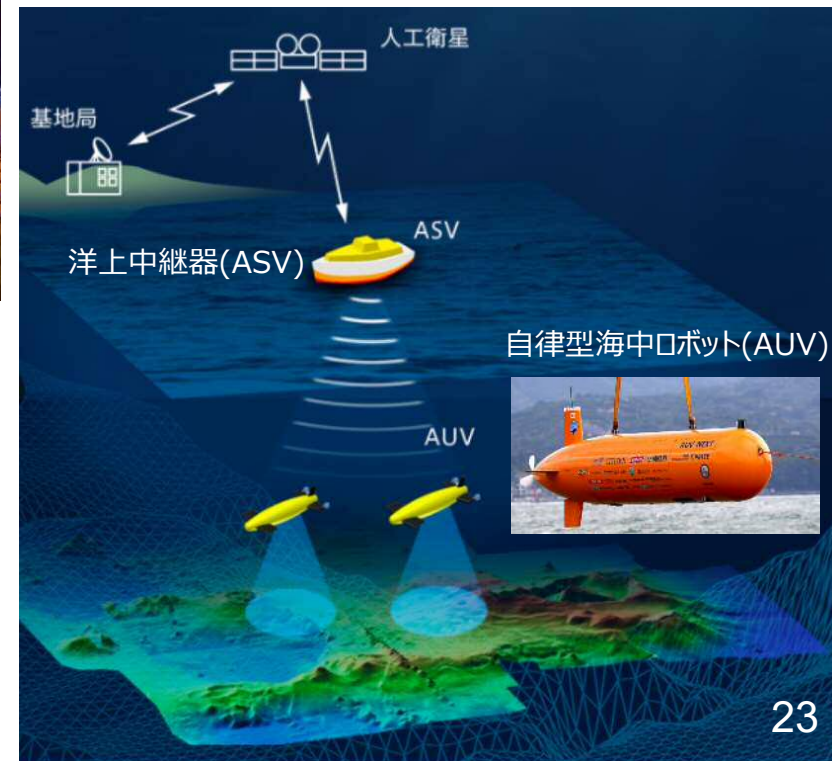
日本海洋事業(株)は「Team KUROSHIO」に社員を参画させており、AUVの運用技術を提供するとともにAUVで取得した海底地形データを解析処理する役割も担当。

“Team KUROSHIO”は32チーム中2位という結果を収めることができました。

“Team KUROSHIO”

JAMSTECを中心に、日本海洋事業(株)を含む8つの団体・企業の研究者・技術者からなる共同研究チーム

出展：Team KUROSHIO ウェブサイトより



【参考】 連結損益計算書(前年同期比)



◆前年同期比で減収・減益。

(単位：億円)	2020年3月期 第1四半期実績	2019年3月期 第1四半期実績	増減	主な増減要因
売上高	1,741	1,747	▲ 5	} チルド事業の取引形態の変更影響 ▲24 ※営業利益への影響はなし
売上総利益	338	368	▲ 29	
販売費・一般管理費	281	293	▲ 12	
営業利益	57	74	▲ 17	
営業外収益	9	12	▲ 3	為替差益 ▲2
営業外費用	5	4	0	為替差損 +1
経常利益	60	82	▲ 21	
特別利益	0	4	▲ 3	
特別損失	2	2	▲ 0	
税金等調整前四半期純利益	59	84	▲ 24	
法人税等	12	17	▲ 5	
法人税等調整額	10	12	▲ 1	
四半期純利益	36	54	▲ 17	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	0	1	▲ 1	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	36	52	▲ 16	

【参考】為替換算による影響額(売上高)



◆米ドルで大きな影響はあるも、通貨全体としての為替影響は僅か。

主要在外会社の 為替換算レート	2020年3月期 第1四半期		2019年3月期 第1四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	333	367	310	334	22	33	23	9
EUR(百万ユーロ)	73	92	68	90	5	2	7	▲5
DKK(百万クローネ)	747	125	745	132	1	▲7	0	▲7
その他通貨	—	58	—	59	—	▲1	▲1	▲0
計		643		616		26	30	▲3

【参考：為替レート】

	2020年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	変動率
米ドル (USD)	110.27円	107.47円	2.6%
ユーロ (EUR)	125.27円	132.29円	▲5.3%
デンマーククローネ (DKK)	16.78円	17.76円	▲5.5%

【参考】セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



◆北米は食品事業が増収。一方、日本はチルド事業の取引形態の変更とエンジニアリング事業の前年からの反動減で減収。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	559 (▲1)	131 (8)	57 (4)	17 (▲2)	137 (▲7)	903 (0)	▲201 (▲9)	701 (▲9)
	561	123	52	20	144	903	▲192	711
食品事業	865 (▲18)	178 (22)		18 (0)	101 (1)	1,163 (5)	▲282 (18)	880 (24)
	884	155		18	99	1,157	▲301	855
ファイン 事業	72 (3)			1 (▲0)		73 (3)	▲7 (1)	66 (4)
	69			1		70	▲8	61
物流事業	79 (4)					79 (4)	▲38 (▲3)	41 (0)
	75					75	▲34	41
その他 事業	63 (▲44)			0 (0)		63 (▲44)	▲11 (19)	51 (▲25)
	107			0		108	▲31	77
仮計	1,640 (▲57)	309 (30)	57 (4)	37 (▲2)	238 (▲6)	2,283 (▲31)		
	1,698	278	52	40	244	2,315		
連結調整	▲424 (27)	▲50 (▲6)	▲38 (0)	▲26 (1)	▲2 (1)		▲542 (25)	
	▲451	▲44	▲39	▲28	▲4		▲568	
連結 計	1,216 (▲30)	259 (24)	18 (5)	10 (▲0)	236 (▲4)			1,741 (▲5)
	1,247	234	13	11	240			1,747

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※当第1四半期連結会計期間より、組織編成の見直しに伴い、従来「食品事業」セグメントに分類していた連結子会社の一部のセグメント区分を、「食品事業」・「水産事業」の2区分に変更しており、遡及適用後の数値で前第1四半期連結累計期間と比較を行っている。

【参考】セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



◆日本・南米が減益。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	9 (0)	11 (1)	17 (11)	▲0 (▲0)	2 (▲0)		41 (12)	▲10 (▲16)	30 (▲4)	4.3 (▲0.6)
	9	10	5	▲0	3		28	5	34	4.9
食品事業	20 (▲5)	6 (1)		1 (▲0)	2 (▲2)		31 (▲7)	1 (▲0)	33 (▲7)	3.8 (▲1.0)
	25	5		2	5		39	1	40	4.8
ファイン事業	5 (▲0)			0 (0)			5 (▲0)	▲0 (▲0)	5 (▲0)	8.2 (▲1.8)
	5			0			6	0	6	10.0
物流事業	2 (▲1)						2 (▲1)	0 (▲0)	2 (▲1)	5.9 (▲4.3)
	4						4	0	4	10.2
その他事業	0 (▲3)			0 (0)			0 (▲3)	0 (0)	1 (▲2)	2.0 (▲2.5)
	3			0			3	▲0	3	4.5
全社経費						▲15 (▲1)	▲15 (▲1)	0 (0)	▲15 (▲1)	
						▲14	▲14	0	▲14	
仮計	38 (▲10)	18 (2)	17 (11)	1 (▲0)	5 (▲3)	▲15 (▲1)	65 (▲1)			
	48	15	5	2	9	▲14	67			
連結調整	1 (0)	▲1 (▲0)	▲8 (▲16)	▲0 (▲0)	▲0 (▲0)	▲0 (▲0)		▲8 (▲16)		
	0	▲0	8	▲0	▲0	▲0		7		
連結計	39 (▲9)	17 (2)	9 (▲4)	1 (▲0)	5 (▲3)	▲15 (▲1)			57 (▲17)	3.3 (▲1.0)
	48	15	14	2	9	▲14			74	4.3

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

※当第1四半期連結会計期間より、組織編成の見直しに伴い、従来「食品事業」セグメントに分類していた連結子会社の一部のセグメント区分を、「食品事業」・「水産事業」の2区分に変更しており、遡及適用後の数値で前第1四半期連結累計期間と比較を行っている。

見通しに関する注意事項



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2019年8月5日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7057

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

